

# 目次 contents

ň	城跡	★ 古 墳
1	郡山城跡 · · · · · 2	23 甲立古墳
2	<b>多治比猿掛城跡 · · · · · · 2</b>	<b>24</b> 山部大塚古墳 · · · · · · · · · 1:
3	鈴尾城跡【毛利元就誕生伝説地】 3	<b>25</b> 土師大迫古墳 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
4	五龍城跡 3	<b>26</b> 戸島大塚古墳 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
5	松尾城跡 · · · · · 4	<b>27</b> 中馬古墳群····································
6	桂城跡 · · · · · 4	<b>28</b> 是光 1 号古墳······1
7	青山城跡・光井山城跡	<b>29</b> 房後白鳥古墳 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	【青光井山尼子陣所跡】・・・・・・5	30 稲山墳墓 · · · · · · · · 1 (
8	風越山城跡 5	
9	岩屋城跡 · · · · · 6	↓ 古 墓
10	清源城跡 · · · · · 6	31 宍戸元源の墓・・・・・・・1
11	長見山城跡 · · · · · 7	32 宍戸隆家夫妻の墓
12	釜ヶ城跡 7	33 毛利隆元逝去の地
13	塩屋城跡 8	34 尼子三兄弟ゆかりの墓 1
14	面山城跡 · · · · · 8	35 西本屋武一郎の墓1
15	猪掛城跡······9	
16	仁後城跡 · · · · · 9	F 神 社 卍 寺
17	吹屋城跡 · · · · · · 10	36 清神社
18	日下津城跡 10	37 宮崎神社 · · · · · · · · 20
19	田屋城跡 (向原町)・・・・・・・・・11	38 照林坊跡 · · · · · · · 20
20	古吹城跡11	39 自休堂 (品慶寺観音堂) · · · · · · 2
21	田屋城跡(八千代町)・・・・・・・12	40 明官地廃寺跡2
22	阿賀城跡 12	
		郡山城周辺図・写真・・・・・・・・2
		甲立古墳から出土した埴輪と
		三次元レーザ測量図 · · · · · · · 2.
	本本	郡山城デジタルガイドマップ・・・・・・ 2.



郡山城跡



戦国期を代表する山城で、毛利氏の本拠城として知られています。15世紀中頃には存在してお り、当初は郡山南東の尾根上にありましたが、毛利元就から長男降元へ家督移譲後(16世紀中頃) には郡山全山に拡張されました。城域は、東西約 1.1km、南北約 0.9km で、城内には崩された石 垣が残る山頂部を中心に300ヵ所以上の郭や、満願寺などの寺院がありました。南麓には内堀が 巡り城下町も形成されていた一方、西麓には元就や降元の墓所があります。

● 所在地:吉田町吉田● 標高:390 m● 比高:190 m





明応9 (1500) 年、毛利元就が4歳の時に父弘元の隠居に伴い郡山城から移り、27歳で本家を 相続して郡山城に戻るまでの青少年期を過ごした城です。郡山城跡から北西 4km に位置し前面を 多治比川が流れ、本丸からは郡山方面を眺望できます。城跡は本丸のある中心部、最高所の物見丸、 山麓の出丸などに分かれています。登城路は急峻で本丸の南側には巨大な堀切もあり、軍事性の 高い要害です。なお、西麓には毛利弘元夫妻の墓所もあります。

● 所在地:吉田町多治比● 標高:376 m● 比高:120 m





鈴尾城は福原城とも呼ばれ、毛利氏重臣の福原氏の城です。14世紀末に毛利元春の5男広世が この地に入り、福原姓を称したのが福原氏の始まりと伝わりますが、城の遺構は戦国期のものです。 吉田盆地の南、可愛川に突き出した尾根の先端部に位置します。山道は整備され、山頂部は眺望 が利く一方、南側の巨大な堀切が要害の名残りを伝えています。城跡の東約300mの山麓にある 菩提寺楞厳寺跡には、一族の墓所(市史跡)があります。

● 所在地:吉田町福原● 標高:310 m● 比高:100 m





甲立盆地西南端の可愛川に沿って長く伸びる丘陵上に築かれた、宍戸氏の大規模な山城です。 宍戸氏は建武元(1334)年に関東から甲立に入り、後にこの城を築き本拠としました。戦国時代 に宍戸隆家と毛利元就の娘との婚姻関係により、宍戸氏は毛利氏の傘下となり、国衆としてその 一翼を担いました。城跡は郭を直線状に多数配置し、各所に大規模な堀切や土塁を備え、部分的 ですが石垣も残っています。

● 所在地:甲田町上甲立 ● 標高:310 m ● 比高:130 m



松尾城跡



戦国初期に石見・安芸の有力国人であった高橋氏が、南の毛利氏らに対する拠点とした城です。 享禄3 (1530) 年頃、高橋氏が尼子方に属したため、大内方の毛利氏・和智氏の連合軍によって この城は攻め落とされました。その後高橋氏は滅亡し、この地は毛利氏の所領となります。城跡 には5ヵ所の郭や複数の堀切・土塁があり、「切岸」と呼ばれる鋭い人工的な斜面がよく残ってい ます。これらの遺構は落城時の姿を留める貴重なものです。

● 所在地:美土里町横田● 標高:457 m● 比高:150 m



6

桂城跡



前愛州に面し、中山城とも三笠山城ともいわれる毛利氏重臣桂氏の城です。桂氏は、16世紀初頭に毛利一族の坂氏から広澄が分家してこの地に住み着いたことに始まります。毛利元就の本家相続後、弟の元綱の擁立を企て粛清された坂氏と同族であったため、広澄は自害しました。しかし、嫡男元澄はその後も元就の重臣として仕え、桂城は引き続き使用されたようです。城跡は丘陵上に西側・中央部・東側の3ヵ所にそれぞれ独立した郭群が造られています。

● 所在地:吉田町桂● 標高:295 m● 比高:80 m



7



天文9(1540)年の郡山合戦の際に、尼子詮欠の軍によって築かれた巨大な陣城です。郡山城に対峙するように築かれたこの2城は谷を挟んで隣合っており、一体的に築かれたことがわかります。4ヵ月間で築かれたとは思えないほど、ともに長い尾根上に断続的に多数の郭を連ねた本格的な山城です。翌 10年1月13日に大内氏からの援軍である陶隆房の軍が三塚山(光井山)を攻め、詮久の大叔父尼子久幸が討死にし、尼子軍は総崩れとなりました。

● 所在地:吉田町常友・相合 ● 光井山城跡:標高367m/比高160m ● 青山城跡:標高370m/比高170m

風越山地



天文9 (1540)年の郡山合戦において、安芸に侵攻した尼子氏の大軍が当初本陣とした陣城です。郡山城から直線で4km、吉田周辺でも特に山深い最高所に築かれています。3ヵ所のピークに残る広大な城域の内部には自然地形に近い粗い平地が広がる一方、外縁部には徹底して横堀や細長い通路を細かく巡らせた、特異な形状です。特筆されるのが、少なくとも2ヵ所確認できる郭の突出部で、横堀を屈曲させ防御力を高めた技巧的な構造となっています。

● 所在地:吉田町多治比 ● 標高:555 m ● 比高:200 m



9 岩屋城跡



「祝屋城」とも記され、市北東部の三次市との市境付近にある、宍戸氏一族深瀬氏の城です。明応7 (1498)年の記録で、大内方であった宍戸氏の城として存在したことが確認できます。城跡は急峻な山上に築かれており、東西2地区に分かれています。東地区には全長70mの郭を中心に土塁や石積、井戸跡などが残り、軍事性の強い構造ですが、西地区は寺跡と伝えられており、平坦地の周りに緩い斜面や浅い溝などがみられます。

● 所在地:甲田町深瀬 ● 標高:255 m ● 比高:80 m



・サいげんじょうあと



可愛川と戸島川の合流点を望む丘陵上に築かれています。下小原は甲立と吉田と豊島(戸島)を結ぶ交通の要所で、中世には麻原郷と呼ばれていました。その中でもここは中世まで門田といわれ、近世には清源という地名となりました。城主とされる門田氏は、毛利一族を祖とする毛利家臣です。城跡は小規模ながら遺構の残りがよく、郭・切岸・堀切・竪堀・土塁など山城の要素が凝縮されており、一部には石垣も残ります。

● 所在地:甲田町下小原 ● 標高:270 m ● 比高:70 m



・ 長見山城跡



毛利氏重臣渡辺氏の城と伝えられます。丘城と呼ぶにふさわしい独立した低く長い丘陵上に築かれ、城の遺構は東西 700 mに及びます。城跡は3地区に分かれており、小規模な竪堀などの遺構が多く残っています。渡辺氏は、毛利元就が本家を相続した翌年の大永4 (1524) 年、元就の弟元綱擁立を企てたため、一族が滅ぼされます。北麓には一族を弔ったと伝わる渡辺七人塚(市史跡)があります。

● 所在地:甲田町下小原● 標高:242 m● 比高:40 m



釜ヶ城跡



中世に吉田荘麻原郷と呼ばれたこの地は、南北朝期の毛利氏の本拠地でした。永和2 (1376) 年、毛利元春の子広房、広内らが叔父の直元が籠る「釜額城」を攻め落としました。これがこの釜ヶ城とされていますが、戦国時代には毛利氏家臣三上氏の城であったと伝わります。高い山上に築かれた城跡は、直線的で丁寧に整地された郭、北側に長く築かれた土塁、さらには堀切などが非常によく残っており、戦国時代に改修された姿と思われます。

● 所在地:甲田町下小原 ● 標高:370 m ● 比高:170 m



塩屋城跡



甲田町と向原町の境界で、戸島川とそれに沿う街道を抑える絶好の地に築かれています。戦国 期に豊島を所領とした粟屋氏の城といわれていますが、詳細は不明です。粟屋氏は毛利氏が吉田 荘に下向した際に追従し、以来毛利氏代々の重臣として知られています。城跡は多くの郭、土塁 そして竪堀などを複雑に配置し、周辺の城跡の中でも特に軍事性の強い構造となっています。

● 所在地:甲田町上小原・向原町戸島 ● 標高:375 m ● 比高:175 m



面山城跡



戦国時代に佐々部を本拠とした領主、佐々部氏の城です。佐々部氏は16世紀初頭までは高橋氏 に属していましたが、享禄3 (1530) 年頃の高橋氏滅亡後は2家に別れてそれぞれ毛利氏と宍戸 氏に属し、その頃面山城から南の牛首城に移ったと言われています。城は南を向き、7つの郭と 堀切で構成されており、主郭下の鋭い斜面からも実戦的な山城であったことがうかがえます。

● 所在地:高宮町佐々部● 標高:427 m● 比高:130 m





市北部の本格的な山城で、戦国時代に高橋氏から宍戸氏の城になったといわれています。江戸 時代の書物によると、城主の高橋氏を配下の佐々部氏が裏切り、それに乗じて宍戸氏が攻め落と したとあります。現地には「宍戸城 | という地名が残っており、宍戸氏との関係を示唆しています。 この城には堀切が非常に多く、特に西端には8重の連続堀切が残っています。これらの遺構から 軍事性が強い城であったことがわかります。

● 所在地:高宮町原田 ● 標高:370 m ● 比高:90 m





生田川に沿った丘陵上に築かれ、尼子城との別名もあります。城主は不明ですが、永禄6(1563) 年、毛利隆元が和智誠春の饗応を受けた直後に佐々部で急死したことから、逝去の地にほど近い ここが和智氏の城であったとする説もあります。城跡は複雑で細かな構造で、特に竪堀と堀切の 多用が顕著です。近隣の牛首城と並び、この地域では突出して軍事性の強い構造の城です。

● 所在地:高宮町船木 ● 標高:280 m ● 比高:80 m



吹屋城跡



市の北端にあたる川根地区を流れる長瀬川が江の川に合流する地点に近い、急峻な山上に築か れています。毛利輝元の重臣であった口羽通良の所領がこの一帯にあったため、通良の家臣の城 といわれています。城跡は、3ヵ所の郭と堀切が残りますが、北側の江の川方面の監視が城の役 割の一つであったと考えられます。なお、川根地区には郡山合戦の際、尼子軍が進軍したといわ れる尼子道が伝わっています。

● 所在地:高宮町川根● 標高:230 m● 比高:110 m



日下津城跡



向原盆地を見渡す急峻な山上にあります。観応3(1352)年、毛利親衡が安芸国守護武田氏に 攻められた際に「坂城」に籠っています。その後、親衡の次男匡時が坂氏を名乗りこの地に土着 しました。また、天文10(1541)年には大内家臣の杉氏が「坂要害」に入城しています。これ らがこの日下津城にあたると言われています。城跡には鋭い斜面を持った郭や、堀切、土塁、井 戸跡などが残り、戦国時代の山城の姿をよく伝えています。

● 所在地:向原町坂● 標高:298 m● 比高:100 m



たやじょうあと (**向原町**) 田屋城跡



三篠川を見下ろす山腹にあり、中郡道と呼ばれた広島方面への街道を押さえています。城主と 伝わる内藤氏は厳島神主家佐伯氏の一族で、鎌倉時代から長田郷に土着し、戦国時代には毛利氏 の家臣となりました。城跡には郭、土塁、堀切、石組井戸などの遺構がまとまって残っています。 特に中心部には基壇状の石列や石垣が明確に残り、出入口の構造がわかります。これらの遺構は、 戦国時代後半に改修されたことを示す、市内でも特に珍しいものです。

● 所在地:向原町長田● 標高:280 m● 比高:100 m





本市南端にあたる有留地区の集落と隔絶した高い山上に築かれています。南北朝時代に毛利元 春の弟直元が当時「有富」といわれたこの地に住みつき、有富氏を名乗ってこの城を築いたと伝 わります。山自体が要害の地であるうえ、細長い尾根上に郭を多数配置しており、非常に堅固な 造りです。特筆されるのは、城内各所で見られる石垣の使用です。複数箇所での石垣の使用は市 内でも少なく、戦国時代に改修されたと考えられます。

● 所在地:向原町有留● 標高:561 m● 比高:280 m



21

(ハ千代町) 田屋城跡



土師ダムのすぐ脇に残り、国人領主中村氏の城と伝わっています。南北朝期に土師に移り住んだ中村氏は戦国時代には毛利氏に属し、元就に本家相続を要請する連署状に署名しています。天文9 (1540) 年の郡山合戦時には、土師で尼子方と合戦に及んでいます。城跡は土師ダム建設に伴い中腹まで破壊されていますが、頂上の郭を取り囲む山城では珍しい横堀の一部が残っています。

● 所在地:八千代町土師 ● 標高:282 m ● 比高:40 m





阿賀城跡



この城は「赤城」ともよばれ、阿賀氏の城で後に毛利氏家臣、井上氏の城であったといわれています。郭は5つあり、T字形に配置されています。それぞれに、削り残して築いたと思われる土塁がよく残り、本丸には井戸跡もあります。山頂まではハイキングコースとして看板等も含めて整備されています。山頂からは眺望が利き、立地のよさが際立っています。また日によっては雲海を見ることができます。

● 所在地:八千代町下根 ● 標高:485 m ● 比高:220 m





甲立古墳



平成 20 (2008) 年に発見された、全長 77.5m の大型の前方後円墳です。4世紀後半の築造で、この時期の前方後円墳では県内最大級です。発掘調査で、後円部墳頂から墓壙1基と墳丘に沿って樹立する円筒埴輪列、その内側に5個体の家形埴輪が一列に配置された石敷区画が検出されました。均整の取れた墳形や精巧な埴輪など築造には畿内地域の勢力が深く関わっていたとみられ、内陸部に造られた古墳として、大和政権の対外政策や国内経営の一端を示すものと評価されています。

● 所在地:甲田町上甲立





山部大塚古墳



吉田盆地の北方、山部の谷の斜面に位置し、横穴式石室をもつ7世紀前半の円墳です。直径は約13 mで、石室は平入りの玄室 (T字形)をもつ珍しい形態で、ほぼ完全な形で保存されています。南西の谷間に向かって開口し、玄室は横幅3.5 m、長さ2 m、高さ2.3 mの平面長方形、羨道部は長さ4 m、幅1.6 mです。羨道部付近からは同時期の須恵器の台付長頸壺が出土しています。

● 所在地:吉田町山部

12 |安芸高田市史騎ガイドブック



土師大迫古墳



現在、土師ダム河川敷内に位置する径約  $12\,\mathrm{m}$ 、高さ約  $3\,\mathrm{m}$ の円墳で、主体部は胴張り長方形の平面をなした横穴式石室です。県内では唯一石室内面に赤色顔料の彩色があり、文様というよりむしろ全面に塗布された可能性が高いと考えられています。須恵器(杯・高杯・平瓶など)、耳環、勾玉、ガラス小玉、鉄鏃などが出土し、6世紀後半の特徴を示しています。現在石室は保存処理をしたのち、埋め戻されています。

● 所在地:八千代町土師



26

戸島大塚古墳



向原町戸島の戸島川東岸一帯にある滝川古墳群の中で最大の古墳です。一辺約 18m、高さ約 4.5m の方墳で、墳丘の上半分は石室の天井石の部分に相当するためか、傾斜が強くなり、細長いドーム状の墳頂部となっています。主体部は南西に開口する長さ約 12m の横穴式石室があり、6世紀後半から7世紀に構築されたものと考えられています。

● 所在地:向原町戸島



27

中馬古墳群



古墳時代後期(7世紀頃)に属する古墳が数十基あり、中馬、金広、長者原にかけての古墳を総称し中馬古墳群としています。山腹や山麓に多くあって、ほとんどが横穴式石室を持つ小規模な円墳です。大部分が盗掘され副葬品も散逸していますが、直刀・馬具・金環・須恵器・土師器・玉類があったことが伝えられています。7世紀後半の明官地廃寺と隣接することから、両者に何らかの関係があったことが想定されます。

● 所在地:吉田町中馬



28

是光1号古墳



市内北部の生田にあるこの古墳は径約 10m の円墳です。この古墳の大きな特徴は、横穴式石室の玄室奥部に向かって左側の側壁を拡張し、小室を付設していることです。この小室の意味は不明ですが、県下でも珍しい形態です。内部は盗掘を受け、出土遺物も不明ですが、石室構造から7世紀前半頃の築造と推定されています。

● 所在地:美土里町生田

14 |安芸高田市史跡ガイドブック

古 墳 ₹



29

房後白鳥古墳



小型の前方後円墳で、全長約19 m(後円部径11.6 m、同高さ1.6 m、前方部長約7 m、同前面幅9.2m、高さ1 m)です。南北に延びる丘陵の北端の頂部、標高260m、周囲水田面からの比高20 mに築かれています。丘川の合流及び交通の交点に築かれている点で注目されます。出土遺物は知られておらず、葺石や埴輪も無く、埋葬施設などの詳細も不明ですが、その形態から、5世紀後半頃の築造と考えられています。

● 所在地:高宮町房後



30

稲山墳墓



平成 25 (2013) 年に市内で初めて発見された弥生時代後期の四隅突出型墳丘墓です。墳丘西半の発掘調査では、平面方形に近い南北 10m、東西 9 m、高さ約 2.0 m の墳丘、南西隅、北西隅に石列による幅約 2.6 m、残存長約 2.6 mの突出部、墳丘斜面に板状の石材による貼石が検出されました。比較的高所に立地し、石列や隅部の構造が特徴的で、保存状態も良く、江の川流域での分布や変遷、弥生時代から古墳時代への墓制の変化を探るうえで貴重な墳丘墓です。

● 所在地:吉田町下入江



31 宍戸元源の墓



有力国人であった宍戸氏は、所領を接する毛利氏と争いが絶えませんでした。しかし当主元源は天文3(1534)年、五龍城を訪れた毛利元就と婚姻関係によって和睦することを決め、孫の隆家に元就の長女が嫁ぎました。以後、宍戸氏は毛利氏に属し、国衆として重要な存在となります。元源は天文11(1542)年に没し、墓は五龍城の向かいの山、菩提寺理窓院の南東側にあります。

● 所在地:甲田町下甲立



夫妻の草



宍戸元源の孫にあたる隆家は、父元家の早世により若くして当主となりました。毛利元就の長女と結婚し、以後、毛利氏一門の重臣として、元就、隆元そして輝元に仕えました。文禄元(1592)年76歳で没し、法名は「天叟覚隆大居士」、墓所は五龍城から約2km離れた山中の天叟寺跡にあります。並び建つ墓碑は元就の長女ではなく、隆家の後妻のものです。

● 所在地:甲田町上甲立

16 |安芸高田市史跡ガイドブック

古墓⊥ 日神 社 卍寺





永禄6 (1563) 年、九州の大友氏と和議を結んだ毛利隆元は、出雲攻めの元就を援護するため 遠征先の防府を出発、多治比を経由して佐々部の蓮華寺に到着しました。8月3日、和智誠春の 館に招かれ饗応を受け帰宿の後、翌4日未明急逝しました。享年41歳。死因は食傷とも毒殺とも いわれていますが真相は不明です。隆元はこの地で火葬され、郡山城内へ埋葬されました。後世 に地元住民がここに石碑を建て、降元の墓として伝わっています。

● 所在地:高宮町佐々部





り



永禄9 (1566) 年、尼子氏は月山富田城を開城して毛利氏に降伏しました。尼子義久・倫久・ 秀久の三兄弟は、長田の円明寺に幽閉されて20年間もこの地で過ごしたと伝えられています。三 兄弟はのちに長州に移って没しており、この墓は三兄弟に随従した家臣の墓と思われます。墓の すぐ下の段には、屋敷跡地が土塁とともに残ります。また、旧円明寺跡(市史跡)はここに移る 以前の寺院跡で、この墓よりさらに高所の山中にあります。

● 所在地:向原町長田



郎



明治4(1871)年、廃藩置県に伴う前広島藩主浅野長訓の東京移住を引き止めようとして、大 規模な百姓一揆にまで発展した事件"武一騒動"。山県郡有田村出身の西本屋武一郎(山県武一と もいう)は、農民達が県庁に提出した嘆願書の起草者となっていたため、騒動の首謀者とみなさ れ処刑されました。妻の縁で葬られたといわれる武一郎の墓が、八千代町勝田旧専念寺近くの山 麓にあります。

● 所在地:八千代町勝田





郡山山麓にあり、郡山築城以前から祇園社として存在していました。正中2(1325)年以後の 棟札が全て現存し、社宝も多くあります。郡山の鎮守社として戦国時代には毛利氏に篤く信仰さ れました。現在の社殿は元禄7 (1694) 年建立のもので、境内にそびえる老杉は樹齢 700 年以 上ともいわれています。5月5日の例祭は、「吉田の市入り」として、また「リーグサンフレッチェ 広島の必勝祈願所としても有名です。

● 所在地:吉田町吉田

18 安芸高田市史跡ガイドブック



宮崎神社



毛利節親 (後に元春)が、観応年間 (1350年頃) 相模国宮崎より勧請した八幡宮で、以後毛利氏の氏神として崇敬されました。社殿は大永4 (1524)年に兵火で焼かれ、さらに毛利・尼子の郡山合戦時に尼子の陣地となり、天文10 (1541)年1月13日に激戦の地となりました。永禄11 (1568)年元就によって再建、その後も毛利氏により修理再造されました。現在、玉殿や絵馬、狛犬など毛利氏時代の文化財が数多く伝わっています。

● 所在地:吉田町相合



38

明林坊跡



浄土真宗照林坊は、永正 14 (1517) 年に7代祐了がこの地に僧坊を移し、以後4代 85 年間にわたって布教の拠点としました。寺はこの間に画期的な発展を遂げ、安芸・備後・出雲・石見で末寺 231 寺を数え、西の本山と呼ばれています。寺は慶長7 (1602) 年に現在の三次市に移りました。現在寺域は県道によって二分され、往時の面影を留める遺構はほとんど認められません。

● 所在地:高宮町船木



39

• じきゅうどう ・ じきゅうどう



この小堂は自休観音堂ともいわれています。中世には品慶寺(本現寺ともいう)という寺院があり、僧自休の開基と伝わります。自休は室町時代の禅僧で、京都大徳寺の僧もしくは鎌倉建長寺の蔵主として、一休和尚とも交流があったともいわれています。周囲に五輪塔などを残しており、お堂の中には自休の位牌が安置されています。建物は、天和2(1682)年に八幡社として建立されたものを、宝暦9(1759)年に現在地へ移築したものと伝えられています。

● 所在地:八千代町佐々井

明官地



7世紀後半に創建された古代寺院跡です。これまでの発掘調査により、金堂跡と塔跡が確認され、東面する伽藍配置をもつと推定されていますが、南面する可能性も考えられています。出土遺物には、9種の軒丸瓦、多量の丸・平瓦とともに、奈良三彩火舎、円面硯、墨書土器、真鍮製指輪など、寺院に関わりの深いものが出土しています。また「高宮郡内マ(部)寺」と刻まれた文字瓦が出土し、当時郷名を冠した「内部寺」という寺名であったことが分かりました。

● 所在地:吉田町中馬

20 |安芸高田市史跡ガイドブック

# \* 郡山城周辺図·写真 \*

# 







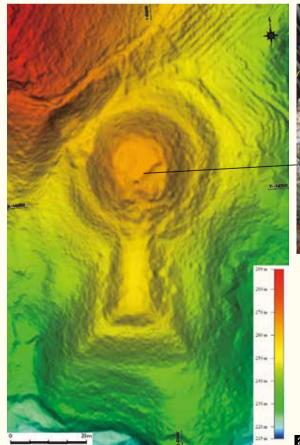


- 毛利一族墓所/時親から豊元までの歴代当主、興元(元 就の兄)、幸松丸(興元の子)、隆元の正室が眠っている。
- ② 毛利隆元墓所/出雲への出陣途中 41 歳で急死した隆元 の墓は、300 回忌の文久 2 (1862) 年に整備された。
- 3 百万一心碑/「百万一心」と刻んだ石を埋めたという伝説にちなんで、元就墓所境内に建立されている。
- ④ 三矢の訓跡碑/兄弟3人が協力一致することが何より大切であるとする \*三矢の訓、碑が御里屋敷伝承地に建っている。

# \* 甲立古墳から出土した埴輪と三次元レーザ測量図 \*





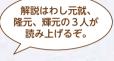




- 甲立古墳出土2号家形埴輪 切妻屋根の高床建物を表す。上層の柱には「鑵手文」 の模様が線刻されている。出土した家形埴輪のうち最 も保存状態が良い。
- ② 墳丘地上型三次元レーザ測量図 多数の詳細な計測点から標高を色分けした図。前方後 円墳の形を見事に表しており、保存状態が極めて良い ことを示している。
- ③ 後円部発掘調査状況 外周に円筒埴輪が囲み立ち、その中に墓壙1基、5基 の家形埴輪が並んだ石敷区画が検出された。

22 安芸高田市史跡ガイドブック

郡山城登城に必携。現在地を確認しながら楽しく歩ける ガイドタブレットを博物館窓口で貸出中!



## マップで現在地を 確認しながら登る

GPSで現在地を確認しながら城内を巡る ことができます。表示は2Dマップの他、 3Dマップ、赤色立体地図の切替が可能。 実際に郡山城に登りながら、詳細な城内 の遺構を把握することができます。



タブレットを片手に山城に登って 戦国時代の地形を体感しよう!

2023年に毛利元就郡山入城500年を迎えるにあたり、安 芸毛利氏の居城であった国史跡郡山城跡のデジタルガイド マップが誕生しました。史跡巡りに際して、見学者が安全・ 安心な環境を提供し、さらに子供から大人まで郡山城の魅

力をより一層体感できる最新コンテンツです。



## 各ポイントに着くと解説を表示

合計22カ所の解説ポイントを設置。

郡山城の見所を巡りながら学ぶことができます。解説には、毛利元就、毛利 隆元、毛利輝元のキャラクターが読み上げてくれる音声ガイド機能も搭載。 誰がどこで登場するかは現地に行ってのお楽しみ!





#### 毛利氏の書状を集めよう

郡山城内には、元就らが実際に贈った毛利氏の書状が隠されています。 各ポイントで書状を獲得すると、当時の書状の文面と現代語訳が表示されます。 どこにどんな書状が隠されているか? 城内を巡り、全ての書状を探し出し てみましょう!





# VRポイントで 360度パノラマを見る

VRポイントでは、当時の地形を360度のパノラマで楽しめ ます。タブレット端末を色々な方向に動かして、当時の城 内の雰囲気を感じてみましょう。毛利氏時代の郡山城にタ イムスリップしたような体験ができます。





#### 安芸高田市歴史民俗博物館

〒 731-0501 広島県安芸高田市吉田町吉田 278-1 TEL / FAX 0826-42-0070 (予約不要、1台500円) ※貸出タブレットの数には限りがあります。 天候によっては貸出できない場合もあります。

### デジタルガイドマップおよび郡山城ガイドのお問い合わせ

郡山城史跡ガイド協会



〒 731-0523 広島県安芸高田市吉田町山手 1059-1 (道の駅三矢の里あきたかた内)

TEL 0826-47-2550 FAX 0826-47-2544



# 「安芸高田市歴史民俗博物館」 〒731-0501 安芸高田市吉田町吉田 278-1 TEL (0826) 42-0070

**【開館情報**】 9 時~17時

休館日:毎週火曜日

(祝日を除く、火曜が祝日の場合は翌日) 祝休日の翌日

12月29日~1月3日

【入館料】300円(200円)、小中学生150円(100円) ※( )20名以上の団体

○ 休館日は、安芸高田市教育委員会生涯学習課に [100名城スタンプ]があります。 (12月29日~1月3日を除く)

【アクセス】1. 自家用車

- ●広島県庁より、国道54号線で約80分 ●山陽自動車道広島ICより約60分
- ●中国自動車道高田ICより約15分 ◎駐車場(無料) 普通車15台、バス3台
- 2. 公共交通機関
- JR可部線可部駅より、広電バス吉田行約50分「安芸高田市役所前」下車徒歩5分 (※広島駅より可部駅までJR可部線にて約40分)
- ●広島バスセンターより、広電バス吉田行約90分「安芸高田市役所前」下車徒歩5分



## 表紙/毛利元就墓所(洞春寺跡)

元亀2(1571)年、元就は75歳の生涯を閉じた。翌年菩提寺洞春寺が建 立され、境内に墓が建てられた。下段には、先祖の合墓と、元就の兄興元、 興元の長子幸松丸、隆元夫人の墓が並ぶ。

# [100名城スタンプ・72郡山城]

登城日 年 月  $\Box$ 

安芸高田市史跡ガイドブック 令和4年3月28日 発行

行 安芸高田市三矢の訓連携協議会 広島県安芸高田市吉田町

執筆・監修 安芸高田市教育委員会生涯学習課 TEL (0826) 42-0054